

日独対訳辞書解題 (三)

信岡資生

5 獨和字典 (A-4) 薩摩學生 松田爲常 瀬之口隆敬 村松經春編
明治六年五月

鈴木重貞氏によれば、「此書は布装黒背皮で金文字で DEUTSCH & JAPANISCHES WORTERUCH (筆者注：原文のまま) とローマ字の大文字が入って」(『ドイツ語の伝来』(株) 教育出版センター 昭和 50 年 97 頁) いて、大きさは 22,7cm×16cm であるが、現物を見たわけではないので、三修社の復刻版(1981 年)によって記述をすすめることにする。復刻版では、本文の大きさは 22,3cm×15,7cm である。しかし、田中梅吉氏によると、「本字典は濃茶色クロース背皮仕立て、22.5cm×17.5cm」(『総合詳説 日獨言語文化交流史大年表』三修社 1968 年 552 頁)、また宮永孝氏によると「本書の大きさは縦二三センチ、横一六センチ、厚さ四・五センチである。布装黒背皮で DEUTSCH-JAPANISCHES WÖRTERBUCH の文字が背に入っている」(『日独文化人物交流史 ドイツ語事始め』三修社 1993 年 225 頁)であり、さらにまた惣郷正明氏は「菊大判」(筆者注：菊版の大きさは 218×152mm)とされていて(『洋語辞書事始』日本古書通信社 こつう豆本 72 昭和 61 年 79 頁)、それぞれ違っているが、当時の印刷・製本技術の段階では一様の仕上がりにならなかったのかもしれない。

扉は左頁に「官許 獨和字典 明治六年第五月」と 3 行に書かれ (図 1)、右頁には「DEUTSCH-JAPANISCHES WÖRTERBUCH MIT EINEM VERZEICHNISS DER UNREGELMÄSSIGEN ZEITWÖRTER || ERSTE AUFLAGE. || SHANGHAI: AMERIKANISCHE MISSIONS

BUCHDRUCKEREI. | 1873.] と書かれている (図 2)。

この扉裏 (次頁) には頁の中央に「Gedruckt in der Amerikanisch Presbyterianischen Missions Presse in Shanghai.」と 1 行のみ書かれ (図 3)、その右頁には呉中子勤錢の「爲日本松田瀬之口村松三君獨和字典序」と題する漢文の序がある (図 4)。読み下すと以下の通りである。

日本の松田・瀬之口・村松三君の獨和字典の爲に序す
 事の日用に於いて切なること、水火・菽粟の^{のぞ}外く能は^ま莫るが如し。以て遠く行く可くして而して至る窮まり無き者、文字に若くは^な莫き也、古く者庖犧、一畫を以て天地の奇を洩し、河圖・洛書、相繼ぎ而出づ。鳥篆・虫章、延べ而替ふる勿し、後の聖人、^{きざ}勸みて成書を爲し、留めて永久に傳ふ。故に曰ふ、今天下に車、軌を同じくし、書、文を同じくす矣と。然るに萬國の大きく、文字各殊にして、語言互ひに異なる。同じから^ま不る者を使ひ而、大同に至らしむるには、通譯に非ざれ者巧を爲さ^な不。日本國、夙に君子を稱し、^ま雅しくして斯文を重んじ、我が朝の經籍・詩文、互ひに相ひ誦み習ひて、異同有る無し。方に今、文運^{ひにひ}日に開き、髦士蒸蒸として益す上る、五方の書輻輳して、問學の人日に繁し。雅しくして新奇を好むと雖も、而して新書尚ほ少し。惟ふに英・佛兩國の書は、先哲已に研求・推究して、著して簡編を成して、廣く世に於いて行ふ。所謂、開ける有りて必ず先んじて後學の津梁爲り矣。茲に^{つが}具には論ぜ不。而して瀬之口・松田・村松の三君、志有りて奮興し、標を新にし領を異にして、必ず^ち另けて機杼を出だし、別けて生面を開かむと欲す。是に於いて苦心して孤り^す詣み、力を^{つく}竭して研求す。初めて獨英・獨蘭字典、併びに西人、烏逸薄魯、忽福曼の書を出せるを見る。喜び極まりて勞を忘る。四家の長を合はせ、参して互ひに考訂す。文の隨に^{したが}循ひて譯し、彙めて一書を成し、名づけて獨和字典と曰ふ。上は天文・地理、經籍・史傳^{いた}に之り、下は日用の酬

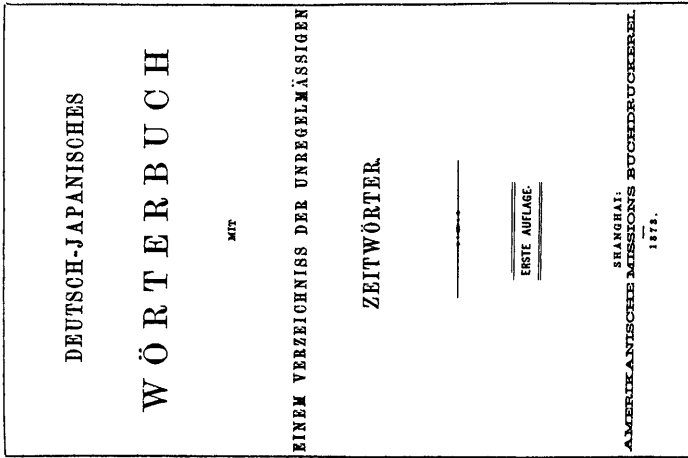


図 2

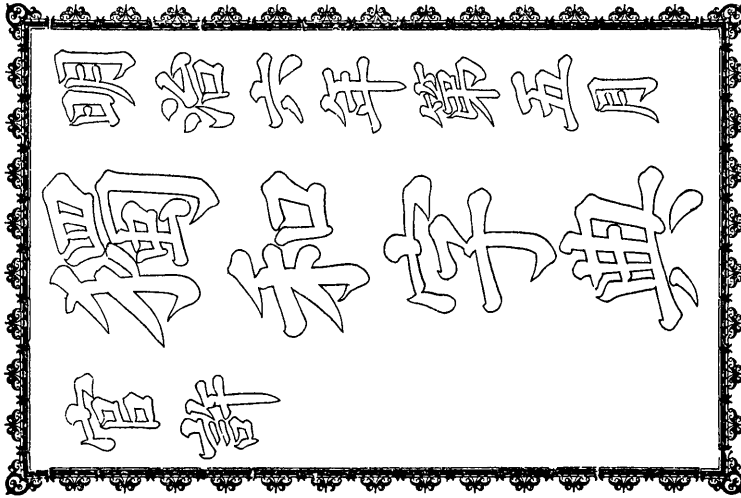


図 1

爲日本松田瀨之口村松三君獨和字典序

事之切於日用，如火火致粟之真能外，可以行遠而至無窮者，莫文字若也。古者庖犧以一畫鴻天地之奇，河圖洛書，相繼而出。鳥篆虫章，延而勿替。後之聖人，勒爲成書，留傳永久。故曰：今天下車同軌，書同文矣。然萬國之大，文字各殊，語言互異，使不同者，而至於大同，非通譯者不爲功。日本國夙稱君子，雅重斯文。我朝之經籍詩文，互相誦習，無有異同。方今文運日開，髦士蒸蒸日上，五方之書，輻輳問學之人日繁。雖雅好新奇，而新書尙少，惟英佛兩國之書，先哲已研求推究，著成簡編，廣行於世，所謂有聞必先爲後學津梁矣。茲不具論，而瀨之口松田村松三君，有志奮興，標新領異，必欲另出機杼，別開生面。於是苦心孤詣，竭力研求，昆初出獨英獨國字典，併西人烏逸得魯，忽羅曼之書，喜極忘勞，合四家之長，參互考訂，隨文補註，彙成一書，名曰獨和字典。上之天文地理，經籍史傳，下極日用酬應，重諱剛談，悉行備載，鉅細不遺。使學者一覽瞭然，易於學習，其有益於世豈淺鮮哉。若以知三君之功爲不少矣，不編無文，緣爲之序。

同治十二年歲次癸酉孟夏

吳中子勤錢懌識

圖 4

Copyright in der Amerikanischen Presbyterienbibliothek Mission Press in Shanghai.

圖 3

日独対訳辞書解題 (三)

應、俚諺・間談を極む。悉く行ひ、^{つぶさ}備に載せ、鉅細を遺さ不。學ぶ者を使て一覽せしめば瞭然たり。學習するに於いて易く、其の世に於いて益有る、豈に淺鮮たらん哉。吾以て三君の功少なから不るを知る矣。文の無きを^{はか}揣ら不、縁りて之を序と爲す。

同治十二年歲次癸酉孟夏

吳中子勤錢懌識

筆者注

- 水火・菽粟… 菽は「まめ」、粟は「あわ」。必要最小限の食物をいう。『孟子・尽心上』に「聖人治天下、使有菽粟如火水、而民焉有不仁者乎」とあるのを引いた表現。
- 庖犧… 古代神話上の帝王。伏羲などとも。民に佃漁・牧畜を教え、八卦、文字などを作ったとされる。
- 一畫を以て天地の奇を洩し… 畫は易の卦を構成する線状の符号。庖犧が易の八卦を整備し万障を統一的に解釈したことをいうか。洩には規則を立てる、法則を整えるなどの意がある。
- 河圖・洛書… 古代中国の伝説上の図像・文字。庖犧の世に、黄河から出た竜馬の背に書いてあったという図と、夏の禹王が洪水を治めたとき、洛水から出た神亀の背にあったという文字。河図は易の卦のもととなり、洛書は書経の洪範のもととなったといわれる。
- 鳥篆・虫章… ともに六書体の中の一つ。篆書と虫書。
- 延べ而替ふる勿し… 永く用いられて廢れることがない。
- 同じから不る者を使ひ而、大同に至らしむるには… 異なる言語・文字を使う者を、ある程度 of 了解・同意に至らしめようとする。
- 髦士… 優れた人物。俊英。
- 蒸蒸として… ことが発展していくさま。盛んに起こるさま。
- 五方の書輻輳して… 「五方」は東西南北及び中央の意。あらゆる所。「輻輳」は、車の輻が轂に集っているように、物事が一箇所に集っていること。
- 津梁… 手引き。
- 奮興し… 奮い立ち。
- 標を新にし領を異にして… 「標」はしるし。「領」は意趣。辞書の構成などに新味をもたせる意か。

日独対訳辞書解題 (三)

- 機杼… くふう。
- 生面… 新機軸。
- 孤り詣み… 「詣」は学問を進めるの意。独学で学問を進め。
- 日用の酬應… 日常の応答・挨拶。
- 淺鮮… あさく少ない。

この序文の読み下しと注については、東京大学名誉教授山口明穂氏にご教示を仰いだ。

呉中子勤錢がどういう人物であるか、また3名の薩摩学生とどういう関係にあるかは不明である。日付に書かれた同治という元号は、清の穆宗皇帝の治世（その十二年は本邦の明治六年に当る）であり、また「日本國…我が朝の…」の文言から、中国の人であると想像される。

さらに次頁に編者ら自らの序文が続く（図5）。

獨和字典序

一友人曾テ予曹ニ語テ西洋ノ學問ヲ爲スニハ才氣ホト害ナルモノハ無シト云シ^{こと}アリ當時其意ヲ了^きトラス太^{はなは}タ怪ミタリシニ近年獨逸學ニ從事シテ初メテ其事ヲ思ヒ大ニ發明スル所アリ蓋シ獨逸ノ學問タルヤ専ラ思慮ヲ練ルヲ主トシ一事一物ヲ知ルニモ全編ヲ熟讀玩味スルニ非レハ其何事タルヲ解スル能ハス彼ノ前半葉ニ問ヲ設ケ後半葉ニ答ヲ付スル問答學派ノ類ニ非ス是レ獨逸學ノ最モ學ヒ難^{して}クメ且我邦人ニ最モ適當スル所以ナリ此際ニ當テ苟モ自己ノ才氣ヲ揮ヒ蕩、看過スルモノ、如キハ其ノ文字ヲ解スルトモ其意味ニ通セス其意味ヲ曉^{さと}リテモ其實固有ノモノト成ラス學問ト事實トハ自ラニ途ニ分レテ徒ラニ口耳ノ學問トナルノミー一字一語ト雖^{して}凡數様ノ意味アルモノナレハ之ヲ丁寧ニ穿鑿シ能ク其義理ヲ明カニメ^{して}然^{して}メ後ニ章句ヲ解シ全文ヲ通シ潛思默慮シテ草、ニ看過セス宜シク所學ヲ以テ所得ト爲スヘキナリ而ルニ獨逸學ノ

日独対訳辞書解題 (三)

我邦ニ入ルヤ日太タ淺ク辭書ニ乏キヲ以テ予曹淺劣ヲ顧ミス獨逸教師
ワク子^ル氏ニ謀リ獨蘭獨英及ヒホッフマン氏且ツウエベル氏ノ字書ヲ
參攷シ和譯ヲ付シテ活版ニ上シ以テ同志ニ便ニス庶クハ初學ノ人能ク
韋編三絶ノ勞ヲ厭フナクンハ予曹此一舉モ亦タ世ニ寸益ナシトセス

薩摩學生

松田爲常

明治六歲第五月

瀬之口隆敬

村松經春

筆者注

○韋編三絶 … 「韋」は「なめし革」のことで、書物を綴じたなめし革の紐が三度切れる。それほど読書に熱心なさま。孔子が『易経』を愛読したという『史記』の故事から。

○ルビは筆者。

次の頁に独文の序文 (Vorrede.) がある (図 6)。

VORREDE.

Das Studium fremder Sprachen wird unter den jungen Japanern täglich mehr ein unentbehrlicher Theil ihrer Ausbildung. In der That, die Kenntniss einer andern Sprache gestattet dem Studirenden, sich mit den Einrichtungen und Gesetzen, mit der Industrie, den Gewerben, der Landwirtschaft u.s.w. anderer Länder bekannt zu machen, und diejenigen wissenschaftlichen Kenntnisse zu erwerben, welche in der jetzigen Zeit die Grundlage aller menschlichen Thätigkeit sind. Für eine gute Schulbildung junger Leute zu sorgen, ist in allen fremden Ländern als eine Hauptaufgabe der Regierung anerkannt. Besonders ist es Deutschland, welches den Ruf hat, dass hier das Schulwesen auf sehr hoher Stufe steht. Je mehr die

VORREDE.

Das Studium fremder Sprachen wird unter den jungen Japanern täglich mehr ein unentbehrlicher Theil ihrer Ausbildung. In der That, die Kenntnisse einer andern Sprache gestattet dem Studierenden, sich mit den Einrichtungen und Gesetzen, mit der Industrie, den Gewerben, der Landwirtschaft u. s. w. anderer Länder bekannt zu machen, und derjenigen wissenschaftlichen Kenntnisse zu erwerben, welche in der jetzigen Zeit die Grundlage aller menschlichen Thätigkeit sind. Für eine gute Schulbildung junger Leute zu sorgen, ist in allen fremden Ländern als eine Hauptaufgabe der Regierung anerkannt. Besonders ist es Deutschland, welches den Ruf hat, dass hier der Schulwesen auf sehr hoher Stufe steht. Je mehr die Japaner deutsche Bücher und Schulen kennen lernen, desto mehr werden sie geneigt sein, ihre wissenschaftliche Ausbildung durch das Studium deutscher Sprache und Bücher vorzubereiten. Schon jetzt hat eine ganze Zahl junger Leute begonnen, jene Sprache zu erlernen; dabei fühlen sie aber täglich den Mangel eines deutsch-japanischen Wörterbuchs. Um diese Lücke auszufüllen, haben wir das nachfolgende Wörterverzeichnis zusammengestellt, indem wir einen kleinen deutsch-holländischen Wörterbuche und dem nützlichen Wörterbuche Hoffmann's gefolgt sind. Wir verziehen uns nicht, dass unsere Arbeit noch viele Mängel hat, gedanken aber, dies nach und nach zu verbessern, und etwaige neue Auflagen immer vollkommener herzustellen. Einzelne hoffen wir, dass sie auch in dieser jetzigen Gestalt dem Studierenden von Nutzen sein wird.

Der Schöler von Satzma.

獨和字典序

一人人書字字第二種之西件ノ學問ヲ
アトラス長谷徑ミタリシニ近年編選學ニ從事シテ初メテ其事ヲ思ヒ大ニ發明スル所アリ蓋シ
獨爲ノ學問タルヤ其ノ思慮ヲ續ルヲ主トシ一事一物ヲ知ルニモ余編ヲ熟讀意味スルニ非レハ其
何事タルヲ解スル能ハス彼ノ前卒業ニ同ラ設テ後卒業ニ存テ付スル同谷母風ノ類ニ非ス長レ獨
獨學ノ最モ偉ビ難カシ且我邦人ニ最モ適當スル所出ナリ此際ニ僅テ初メ自己ノ才氣ヲ擢ヒ勝
著述スルモノ、如キハ其ノ文字ヲ解ストモ其意味ニ達セズ其意味ヲ曉リテモ其實固有モノ
ト成ラス學問ト事實トハ自ニ二邊ニ分レテ從テ二口耳ノ學問トナルノミ一字一語ト雖モ數據ノ
意味アルモノナレハ之ヲ了學ニ難シ能ク其義理ヲ明カニス然レ後ニ單句ヲ解シ金文ヲ讀シ諸
認識感シテ草、二重遇セズ文シク所得ト爲スヘキナリ而レニ獨選學ノ我邦ニ入ルヤ
日本夕隈ヲ往キニ至キキ以テ予實隱劣ヲ顧ニス獨選學隨ワケ予ル兵ニ謀リ獨選學及ヒホア
マン氏且ツウエベル氏ノ字書ヲ參攷シ和譯ヲ付シテ活版ニ上シ以テ同志ニ假ニス庶ワハ初學ノ
人能ク其編三編ノ勞ヲ顧フナラケルハ予實此一舉モ亦ク世ニ寸益ナシトセス

薩摩學生

松田爲常
村松經春
瀬之口隆敬

明治六年第五月

Japaner deutsche Bücher und Schulen kennen lernen, desto mehr werden sie geneigt sein, ihre wissenschaftliche Ausbildung durch das Studium deutscher Sprache und Bücher vorzubereiten. Schon jetzt hat eine ganze Zahl junger Leute begonnen, jene Sprache zu erlernen; dabei fühlen sie aber täglich den Mangel eines deutsch-japanischen Wörterbuches. Um diese Lücke auszufüllen, haben wir das nachfolgende Wörterverzeichnis zusammengestellt, indem wir einem kleinen deutsch-holländischen Wörterbuche und dem nützlichen Wörterbuche Hoffmann's gefolgt sind. Wir verhehlen uns nicht, dass unsere Arbeit noch viele Mängel hat, gedenken aber, dies nach und nach zu verbessern, und etwaige neue Auflagen immer vollkommener herzustellen. Einstweilen hoffen wir, dass sie auch in dieser jetzigen Gestalt dem Studirenden von Nutzen sein wird.

Der Schüler von Satzuma.

この序文は3人のうちのだれが書いたものかは分からない。文中で wir (我々) といっている一方で、Der Schüler von Satzuma と単数形を使っているのは3人一体との共同意識の表れであろうか。一部綴りの誤り (Wörterverzeichnis) が見受けられるが、全体として文法上の誤りのない、和文独訳の模範文のような独文である。大意は次のようである。

序

外国語の習得は若い日本人の間では日毎にますます不可欠な教養となっていていっている。実際他国語の知識は学究者に、他国の政治機構や法律、工業、商業、農業等々について通曉せしめ、今日の時代においてあらゆる人間活動の基礎となる科学知識を獲得せしめるのである。青少年の良き学校教育に意を注ぐことは諸外国において政府の主要課題と認識されている。特にドイツは、教育制度が非常に高い段階に達

しているとの評判の国である。日本人がドイツの書物や学校を知れば知るほど、ますます日本の学問的教養をドイツ語とドイツ書の学習を通じて準備しようとする傾向を強めるのである。既に今日大勢の若者が彼の言葉の習得を始めているが、同時に彼等は独和辞書の欠如を日毎に痛感しているのである。この欠陥を埋めようと、我々はある小さな独蘭辞典と有用なホフマンの辞典に従って以下の単語を集めた。我々は、我々の辞書がなお未だ多くの欠陥を持つことを隠さないが、これを漸次改め、将来いつそう完璧な新版を製作することを考えている。差し当っては、我々はこの辞書が今現在の形でも学徒に役立つと期待するものである。

薩摩学生

以上三篇の序文に底本として挙げられているのは以下の辞書である。

呉中子勤錢の序：独英，独蘭，ウエベル，ホフマン

編者の和文の序：独蘭，独英，ウエベル，ホッフマン

編者の独文の序：小型独蘭，Hoffmann

三篇に共通なのは独蘭辞書とホフマンである。田中梅吉氏は「確かな原典は分からない」としながらも、ホ[ッ]フマンは、「葵文庫にも所蔵のある1858年(3版)ライプチヒ版の P. L. Hoffmann, Praktisches grammatisches Wörterbuch der deutschen Sprache. 3., verbesserte Aufl. Leipzig, Brandstetter, 1858. (Reclam 版型, 本文 516 ページ) のことか、あるいはまた静岡大学に残っている Wilhelm Hoffmann 編著の、かの大辞典(筆者注: Vollständiges Wörterbuch der deutschen Sprache. 6Bd. Leipzig 1861) のことか」とされている。またウエ[-]ベル辞書とは「1872年ライプチヒ版の F. A. Weber, Handwörterbuch der deutschen Sprache (第一大學區第一番中學校蔵印のあるもの、筆者蔵) のことであろう」とされている(『綜合詳説 日獨言語文化交流史大年表』552頁)。

この当時の独和辞書では、原典ないし参考文献について具体的な書名を挙げているものはないので、推測するしかないが、ホ[ッ]フマンもウエ[-]ベルも、この頃の独和辞典が好んで典拠とした辞書である。例えば、『増訂 獨和辭彙 第三版』(風祭甚三郎纂譯 後學堂 初版明治16年)の緒言の第一行に「此書ハ獨逸人ウヱベル、ホフマン、ウヱニヒ三氏ノ辭書ヲ原本トシ其他諸書ヲ參考シテ纂譯増訂シタルモノナリ…」とあり、『挿入圖畫 獨辭字典大全』(福見尚賢 小栗栖香平纂譯 國文社 初版明治18年)の凡例の第一行にも「本書ハ専ラホフマン。ハイゼー。ウヱーベル。三氏ノ辭書ヲ原書トシ傍ラゼームス。キヨーレル。アドレル。ザンデル。マイエル。ブロックハウス。ウヱーニヒ等諸氏ノ獨逸辭書及ビ羅匈字書等數十卷ヲ參考シテ纂譯編輯シ…」、また明治十八年初版の『袖珍挿圖獨和辭書』(伊藤誠之堂)は「ホフマン原著 小野 操纂譯」と謳っている。明治二十年代に入っても、なおホフマンとウヱーベルは好んで原典とされ、『獨英和三對字彙大全』(高 良二 寺田勇吉譯 共同館 明治20年)や『挿入圖畫 獨和字書大全』(行徳永孝編譯 金原寅作刊 明治23年)をはじめ他にも、ホフマン、ウヱーベルを原典に挙げている辞書が多い。

監修者ないし相談役の役割を果たした「ワク³子^ル氏」とは、Gottfried Wagner である。彼については、財団法人日獨文化協会が昭和十一年五月に発行した『日獨交通資料 第三輯 我が國に於ける獨逸學の勃興』(維新史資料編纂官 丸山國雄著)が、明治初年に我が國に招聘された教師及び幕末に於ける駐日獨逸外交官の略歴の中に、次のように記載している(二三頁)。

ワグナー (Wagner, G.) (一八三一—九二)

一八四九年ゲツチンゲン大学を卒業し、化学を専攻す。一八六八年(明治元年)我が國に来朝し、明治三年大学南校教師(三・一〇・一二—四

・三・一五) となり、五年東校教師(五・三・一五) となり、本科生に窮理学、化学を、予科生には数学、幾何学、算術を教授し、八年には東京開成学校にて製作学の講義をなし(八・九・二一—一〇・二・二八) 明治十一年京都府医学校で理化学を、舎密局で化学、工芸を講じ、十四年東京大学理科で化学を講じ、或は東京職工学校(東京工業大学の前身)で陶器玻璃工科の主任及び農商務省嘱託を歴任す。此の間明治五年にはウインに開かれた万国博覧会に、又九年米国の費府で開催された万国博覧会に御用掛として派遣せられた。明治二十五年(一八九二年) 東京で卒し、生前の勲功により勳三等に叙せられた。

筆者注：費府はフィラデルフィア；なお文中の旧漢字体は新字体に改めた。

荒俣 宏の『日本を製陶王国にした京都再興の父 G・ワグネル』(『開化異国助っ人奮戦記』小学館 1993年 98~109頁) によれば、ワグネルは稀に見るほど語学の才能に恵まれていて、ギリシャ・ラテン語はもとより、英獨仏伊からオランダ、デンマーク、スペイン語にも通じ、米国の会社の依頼で石鹼工場を建てるために長崎にやってきた。しばらくは佐賀鍋島藩の委託を受けて有田でヨーロッパ式陶磁器製造法を指導していたが、ほどなく明治維新で上京し、大学南校、ついで東校で外人教師として雇われた。京都の舎密局ではとりわけ七宝の発展に貢献したという。因みに「舎密」とは *Chemie* の和訳で、「舎密局」は物理化学系生産技術の総合研究所といったところであろう。いずれにしても彼の専門は数学・化学で、言語学者ではない。ワグナーと3名の薩摩学生との出会いが何処であったかは定かではない。3人が大学南校あるいは東校で学んだ可能性は高いが、九州の有田で知り合ったのかもしれない。

のちに『コンサイス獨和辞典』(三省堂 昭和11年)を編纂した東京帝國大学教授山岸光宣は、『大學南校文書の獨逸學關係事項』(『書物展望』第九卷第五號所載)の中でこの『獨和字典』について次のように触れてい

る。

…當時頗に旺盛を極めた獨逸學熱の需要に應ぜんがため、同五年中には東京學半社の索和袖珍辭書（筆者注：索和袖珍字書の誤り）を初め、長崎の火州、後學（山本松次郎）の袖珍字語譯囊、東京春風社の和譯獨逸辭書が出版された。併しこれ等の辭書は皆比較（筆者注：比較的の意か）語彙少く、また解説不十分のため既に當時多少進歩した獨逸語學習者の要求を、満足させるに足らなかったものゝやうである。これを證明するものに次の大學文書がある。

獨和字典 百部 但シ一部ニ付金十五圓

右ハ從來御備ヘ之字書聊用立候書籍ニ無之候處追々生徒増員且學業進修イタシ候ニ付テハ翻譯研究其他深奥之字義ニ至リ何分適當之譯付ケ難ク候爲束手候ヨリ外無之甚困却之趣ニ候仍テハ今般上海ニ於テ新刻相成候獨和字典前書ノ通御買上ケ生徒へ相貸渡御拂下ケ等ニ相成度此段至急御詮義議相願候也

明治六年十月二十八日 田中弘義

伴 正順

正五位田中不二齋殿

これに對して「何之通」と許可があり、また

但拂下ケ代金之儀ハ本省へ可差出事

明治六年十月三十日

という文書がある。この辭書は薩摩學生の松田爲常、瀬之口隆敬、村松經春の三氏が、獨逸教師ワグネルに相談し、ホフマンやウエーベルの辭書を參酌して、これに和譯を附したものである。上海で印刷したのは、同じ薩摩學生の前田正毅等編纂の和譯英辭書が既に明治二年同地で印刷された關係からであらう。編者の一人なる松田爲常氏は、私の一高在學當時には、まだ同校の舎監をして居られた。寄宿舎の會合の席上で演説をされる時には、よく「この爲常が」といはれたことが、今なほ私の耳に残つてゐ

日独対訳辞書解題 (三)

る。當時既に同氏が獨和辭書を編纂されたことなどを知つてゐたならば、いろいろ獨逸學史研究の參考になることも聞いておくのだった。…中略… この辭書は菊版七百十九頁の大部なものであるが、當時の十五圓であるから、仲々高價なもので、恐らくこれが拂下げを受けたものは、極めて少なく、多くの學生は借用を願出たものと思ふ。

筆者注：田中不二麿は当時の文部大丞（大臣）。また田中弘義は開成学校校長、伴 正順も開成学校校長心得である。

『獨和字書』には奥付がなく、印刷・發行所や日付については、上記扉の記載のみである。印刷所とみられる美華書院は、既に前回（『日独対訳辞書解題（二）』「經濟研究」第158号）で考察したように、中国在住の英米人宣教師の著書、中国語訳の聖書や賛美歌を印刷・出版していたが、最初の本格的な和英辞典であるヘボンの『和英語林集成』（美國平文先生編譯 和英語林集成 一千八百六十七年 日本横濱梓行 慶應丁卯新鐫）を慶應三年に刊行して、洋学者の間で評判となった。明治二年には『改正増補和譯英辭書』を出版したが、その編纂に當つた薩摩藩士の高橋良昭、前田正毅、前田正名の三人が序文に「日本薩摩學生」と署名したことから、俗に「薩摩辭書」と称せられて重宝された英和辞典である。『獨和字典』の編者たちが「薩摩學生」と署名したのは、彼等に倣い、あやかつてしたことは明らかである。明治四年に出た長崎の英学者岡田好樹が編んだ仏和辞書『寄陽 好樹堂譯 官許佛和辭典』も美華書院で印刷された。ただ、英和の薩摩辭書も、官許の仏和辭典も、訳語の和文は縦組みであつたが、『獨和字典』ではこれを横組みとした点は注目される。石本岩根氏は、先に明治五年『孝和袖珍字書』が東京で刊行され、欧文活字は我が国に存在していて、「上海の手を煩はさぬ時勢にあつたのであるから、何故に上海に於て出版しなければならなかつたか不審に思はれる」（『明治年間に於ける獨和及び和獨辭書に就て』；臺灣愛書會編『愛書 第一輯』昭和八年 所

日独対訳辞書解題 (三)

載)と述べておられるが、欧文書物の印刷技術の水準もさることながら、当時の交通事情では、長崎や鹿児島からの船便ならば、東京よりも上海のほうが近かったことも、美華書院に原稿を持ち込んだ理由の一つと考えられる。

売価については、これも既に前々回(『日独対訳辞書解題(一)』「経済研究」第157号)で引用の入澤達吉氏の回顧談にも、この『獨和字書』が当時の三つの独和辞書の中で「大きく」また「一番價が高かった」とあった(『雲莊隨筆』)。『東京大学百年史 資料 一』(東京大学百年史編集委員会編 昭和五十九年 東京大学発行)によると、明治六年当時の文部省教員の給俸は「大学教官四百円ヲ最上トシ百円ヲ最下トシ中学教官八百円ヲ最上トシ三拾円ヲ最下トシ小学教官ハ三拾円以下拾円」とされている(三二三頁)。また、『値段史年表 明治大正昭和 週刊朝日編』(朝日新聞社 昭和63年)から、当時の物価を拾うと以下のようである。

巡査の初任給	明治7年	4円
大工の手間賃(1日1人当り)	明治7年	40銭
日雇労働者の賃金	明治13年	21銭
白米(10キログラムの小売り価格)	明治5年	36銭
日本酒(1.8リットル)	明治7年	上等酒 4銭 中等酒 3銭4厘 並等酒 2銭2厘
炭 1俵(15キログラム)	明治15年	42銭
銀座の地価 1坪	明治5年	5円
家賃(板橋区仲宿における1戸建て	明治12年	8銭

または長屋形式で6畳, 4.5畳,
3畳, 台所, 洗面所)

これらから見ると、十五円がいかに高価であったかが想像できる。幕末から明治・大正・昭和にかけて書籍の商いを営んだ玉淵堂三木佐助の『玉

淵叢話 下』(二十九)に、次のような談話が載っている。「明治の始め頃は、英和辞書などと申す物は至って品が稀でござりましたので其價も中々高かったのでござります其頃私は陸軍兵學校寮の川勝丹波守と申された人の所へ出入を致しまして英和語林集成という辞書を度々拂下をして貰ひました其辞書一冊を四十五圓乃至五十圓位で賣った事が屢々ござります、それを明治二十年頃か丸善會社で再版致しまして發賣しましたが其時はもう餘程價が安くなって居りました、今一つは和譯英辭林と申す字書ではは大阪今宮蛭子神社の南に薩摩の錢鑄場と云ふものがござりまして其處に居られました五代と云ふ人から折々拂ひ下げて貰ひました一冊大概二十五圓位で買ひまして三十圓位に賣捌きましたが、のち數版の翻刻が出来まして終には一圓以内まで下りました俗に之を薩摩版の辞書と稱へたものでござります」(『明治出版史話』ゆまに書房 昭和 52 年)。当時の外国語辞書の商いの様子が窺える。

Vorrede の裏頁は「ERKLÄRUNG VON ABKÜRZUNGEN. 略語之解」(図 7) である。ここには 17 語が挙がっているのみである。『李和袖珍字書』や『袖珍李語譯囊』のそれと比べると、品詞を表す「…辭」が「…詞」となっているのが目立つ(形容辭 → 形容詞, 副辭 → 副詞など)。以下に(次頁)三つの独和辞典の文法用語について、比較・対照してみよう。

その左頁から本文(DEUTSCH UND JAPANISCHES WÖRTERBUCH.)となる(図 8)。本文は 1-712 頁、中央に縦線が入って 2 段組み、各段 33 行、見出し語はラテン字体で品詞に関係なくすべて頭字を大文字にし、「略語之解」に従って品詞名をイタリック体で示してある。1 段当り約 20 語、1 頁 40 語と見ると、収録語数は約 3 万語弱である。これまで考察した独和辞書の中では最も多い。名詞で複数形が変音する場合と、一部の弱変化名詞にはその複数形が記されているが、記載方法は必ずしも語構成を

日独対訳辞書解題 (三)

	『享和袖珍字書』	『袖珍字語譯囊』	『獨和字典』
a.	形容辭	形容詞	形容詞
ad.	副辭	副詞	副詞
art.	冠辭	冠詞	冠詞
conj.	接續辭	接属詞	接續詞
interj.	歎息辭	感働詞	間投詞
pl.	復數	複稱	複數
pron.	代名辭	代名詞	代名詞
prep.	前置辭	前詞	前置詞
v.a.	他動辭	能動詞	他動詞
v. imp.	非人動辭	無人動詞	非人動詞
v. n.	自動辭	中性動詞	自動詞
v. r.	再歸動辭	復帰働詞	復歸動詞

考慮せず、全く随意である。例えば

Bad, <i>m.</i> Bäder,	モクヨク バイ 沐浴。沐浴場
Mutter, <i>f.</i> -Mütter.	ハ、 シキウ チ セカイ カタク メス 母。子宮。地。世界。家畜ノ牝
Abgang, <i>m.</i> -Abgänge.	シュツタチ ハツ タイヤク カ 出立。出發。退役。減ジ。缺ケ
Abgott, <i>m.</i> -götter.	ウ カタ シナモノ シ ソンボウ 売レ方。ハケ (品物ノ) 死。損亡
Haarschnur, <i>f.</i> -schnure.	ホンゾン フツゾウ 本尊。佛像
Geizel, <i>f.</i> -n	クミ ヒモ キヌイト アミコミ 全上。毛ヲ組タル紐。絹絲ニ編込タル毛
Lumpensammlerin, <i>f.</i> -nen.	ヒトシチ チョウロウ クルシ 人質。朝弄。苦ミ
	ボロ切ヲ集ル女

これらに対し、以下のような記載もある。

Buch, <i>n.</i> -ücher,	ショモツ チョウメン 書籍。帳面
-------------------------	---------------------

ERKLÄRUNG VON ABRÜZUNGEN

解之語略

a.	adjektiv.	形容詞	數詞
adv.	adverbium.	副詞	複數
art.	artikel.	冠詞	前置詞
conj.	conjunctiones.	接續詞	代名詞
f.	feminiuum.	女性	他動詞
interj.	interjectiones.	間投詞	非人動詞
ir.	irregular.	不規則	自動詞
m.	masculinum.	男性	使役動詞
n.	neutrum.	中性	使役動詞

日独対訳辞書解題 (三)

DEUTSCH UND JAPANISCHES
WÖRTERBUCH.

Aak, m.-s.	A. 庭ノ坪ヲ林ノ名(ヲ アイン河ノ)	AAS	草ノ名
Aakids, m.	A. 存昔厄制外亞種ノ 王ニウラスノ後胤	Aashlume, f.-n.	蕨及ノ肉ノ方ヲ削リ 落シ置テ入レル草ヲ
Aal, m.-s.	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aanen, v.-c.	滑シキトヒキラス
Aalbers, f.-n.	A. 魚ノ名	Aadlings, f.-n.	蕨レモノニ葉ノ類
Aalbeits, f.-n.	A. 蕨科魚ノ實ノ類	Aadfrassig, Aashfar-	蕨レモノヲ食フ肉食
Aale, f.-n.	A. 蕨科魚ノ實ノ類	scnd, a.	蕨
Aalen, v.-c.	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aasgeriet, m.	蕨ノ一種
Aalgrabel, Aalbecher, m.	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aasgeruh, Aasger-	蕨ノ一種
Aaltrische, t. Aal-	A. 鱈科魚ノ實ノ類	tsch, m.	蕨ノ一種
baere.	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aasgerig, a.	蕨ノ一種
Aalkorb, m.-s.	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aasgrube, m.	蕨ノ一種
Aalmauter, f.-mutter.	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aashaf, Aashg, a.	蕨ノ一種
Aalputze, Aalputztes, 全上	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aasleifer, m.	蕨ノ一種
Aalraupe, f.-n.	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aasleulle, f.-n.	蕨ノ一種
Aalwurm, m.-wurmer.	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aasleulle, f.-n.	蕨ノ一種
Aar, m.-s.	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aasleulle, f.-n.	蕨ノ一種
Aar, m.	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aasleulle, f.-n.	蕨ノ一種
Aaranwurzel, f.-n.	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aasleulle, f.-n.	蕨ノ一種
Aarwurz, m.-r.	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aasleulle, f.-n.	蕨ノ一種
Aas, n.-Aaser.	A. 鱈科魚ノ實ノ類	Aasleulle, f.-n.	蕨ノ一種

図 7

図 8

日独対訳辞書解題 (三)

Hand, <i>f.</i> -ände.	^テ ^{ハタラ} 手。働キ
Lust, <i>f.</i> -üste	^{タノシ} ^{ヨロコ} ^{コノミ} 樂ミ。喜ビ。好ミ。欲
Haarzopf, <i>m.</i> -öpfe.	^ア 編ミタル髮毛

用例や熟語・慣用句の記載はごく少ない。例：

Ab, <i>ad. et prep.</i>	下ニ。離レテ。ヨリ。カラ。
Ab und zu	アチラコチラニ。
Auf und ab.	^{ウエシタ} 上下ニ
Abarbeiten, <i>v. a.</i>	^{ジョウジュ} ^{ナシト} 成就スル。爲 ^ス 遂 ^{ゲル}
Eine Schuld. abarbeiten.	^{シゴト} ^{シャクキン} ^{ツクナ} 仕事ニテ借金ヲ償フ
Einen menschen oder ein thier abarbeiten.	^{ヒトアルヒ} ^タ ^{ドウアツ} ^{ツカ} 人或ハ他ノ動物ヲ使ヒ勞ラス
Für. <i>prep.</i>	^{マエ} ^{ムカ} ^{タメ} ^{カワ} 前ニ。向ッテ。爲ニ。代リニ
Für und für.	^{ツネ} ^{イツ} 常ニ。何時デモ
Geben, <i>v. a, ir.</i>	^{アタエ} ^ヤ ^フ ^ヨ 與ル。遣ル。附與スル
Es gibt.	^ア 有ル
Vogelfrei, <i>a. et ad.</i>	^{タレ} ^{ミアタリシ} ^{ダイ} ^{トラ} ^{コロ} 誰ニテモ見當次第ニ捕エテ殺ス事ノ ^デ ^キ 出來ル ^{アクシ} ^{ソノヒトエクカクシ} (悪事ヲナシテ其人行方知レザルニ ^{ヨッ} ^{カクノゴトク} ^フ 由テ如此 觸レ出スナリ)
Einen vogelfrei erklären,	^{タレ} 誰ニテ見當り次第ニ捕エテ殺セト言ヒ ^{ワタ} 渡ス

(筆者注：現在の独和辞典では、例えば『小学館 独和大辞典』(1985年)では「jn. für Vogelfrei erklären ~から法の恩典(保護)を奪う。」となっている。

これらの例でもわかるように、字体、文字の大小、句読点の使用には一定の方式がなく、誤植も相当見受けられる(×abarbeiten → ○abarbeiten)ようである。訳語の殆どの漢字にはルビで読み方がふってあるが、見出し

語には発音の表示はない。

713—719 頁は「VERZEICHNISS DER UNREGELMÄSZIGEN ZEIT-WÖRTER 不規則動詞表」(図 9) で, INFINITIV. 不定法; IMPERFECT. 半過去; PARTICIP. 過去分詞の三つの欄が設けられ, 214 語の動詞が取り上げられている。因みに本文では, 動詞に変化形は表示されていない。

これまで見てきた明治 5 年から 6 年に出版された日本最初の独和辞典のうち, 『孝和袖珍字書』『和譯獨逸辭典』『獨和字典』の三冊について, 編者たちが初めて接した独逸の文化制度に関することばを, それぞれどのように和訳したかを, 比較調査してみよう。

見出し語	『孝和袖珍字書』	『和譯獨逸辭典』	『獨和字典』
Abenteurer	シアハセ。ウン 運。	周り合ヒ, 時運	コウフク ジュン メダ アブ 幸福。時運。周り合
Anwalt	シアハセヨシ 市利 ダイゲン 代言。メ ウダイ。ソウダイ 總代。ホサ輔佐。レ ウジ 領事。クシジ	公事ヲ捌ク人, 公權, 働キ手, 役名	セ センケン メウダイ 全權。名代
Autorität	メンキヨ 免許。シ ンヨウ 信用。イセ イ威勢	威勢, 免許, 支配人, 信用	イセイ シヨウコ 威勢。證據
Bewusst	オボヘテ井ル 覺居。 ワスレヌ。シリテ井 ル 知居	自覺ノ	知テラル
Bewusstsein	チカク 知覺	要用, 學問, 了解	チカク 知テラル。知覺
Bürger	ミヤコノヒト (家柄 ノ人ニテ政事戦争ニ モ拘ハル者)	町人, 都人士	トフ チュウミン ミヤコ 都府ノ住民。都ノ ヒト メイセキ 人。名籍ノアル人 ソセイタダシ (素姓正キ人ニシテ コト ノゾ ホウ フセ 事ニ望ンデー方ヲ防

日独対訳辞書解題 (三)

Chemie	ブンセキジユツ 分 析術	舍密術	グ人 ^{ナリ} 也) タワガク 化學
Erkennen	シラベル 調。メヲ ツケル 注目。カン テイスル 鑑定。キ キサダメル。オボヘ コム。サトル	見付ル、理會スル、 免ス	ガテン ^{キ、ト} 合點スル。聞取ル。 シ 知りテラル。目ヲ付 ル。サイバン 裁 ^メ 判 ^{ツク} スル。
Gemeinschaft	イツチ 一致。ワシ ン 和親	仲間、親和、一致	ヨリアヒ ^チ 寄 ^{マシハ} 合。一致。交リ
Gemüth	イキホヒ。チエ。コ コロバセ 意。子 念。キ氣。リヤウケ ン 了簡。ゾン子 ン	精心、心、精神	コ、ロ 意 ^{イキツ} バセ。勢 ^{セイシン} ヒ。精 ^{コ、ロ} 神。 心
Gesellschaft	ナカマ。シヤチウ 社中	交際、會、同勢	一致。仲間。社中
Gymnasium	ダイガクカウ 大學 校	建康學術ノ稽古所	——
Individuum	イツタイ 一體。イ チブツ。ヒトリ	獨立物	——
Industrie	ベンキヨウ 勉強	——	セイゾウ ^{ツト} 製 ^{ハタラ} 造。勤 ^メ 。働 ^キ キ。 コリカタ 凝 ^コ 固 ^カ マリ
Jahrhundert	百年間〔「ヤソ」紀元 後ノ〕シヤウガイ 生涯	百年	一 ^{セイ} 世。百年。一 ^{セイ} 世ノ 人
Oper	ジヤウルリキヤウゲ ン 淨瑠璃狂言	演劇	ジョウリリ 淨瑠璃ノ類
Philosophie	リガク	聖學、理學	理學
Philosophiren	キウリスル 究理	物理ヲ説ク	理學ヲスル
Physik	キウリガク 窮理學	窮理學	キウリ 窮理學
Polizei	セイジ 政事	政治	ツカサド 政治。政治ヲ職ル役 人

日独対訳辞書解題 (三)

Populär	クハシキ。セイサイ ナル 精細。アキラ カナル 明	人望アル、平人ノ、 明ラカニ	ヘイミン ^{ヘイミン} 。誰 ^{タレ} ニテモ 理會 ^{ワカ} ルベキ。民ニ愛 サル、
Recht	タダシサ 正。ハウ 法。リツ律。シンミ ヨウ 神妙。リ 理	道理、法律、公平、 免許	ドウリ ^{ドウリ} 。ケン ^{ケン} 。ドウリ ^{ドウリ} 。ホウリツ ^{ホウリツ} 正サ。權。道理。法律。 メンキョ ^{メンキョ} 。サイバン ^{サイバン} 免許。掟。裁判
Republik(ck)	キヤウワセイジ 共 和政事	共和政事、共和ノ 都府	キョウワセイジ ^{キョウワセイジ} クニ ^{クニ} 共和政治ノ國。共和 政治
Revolution	ウツリカハリ。ヘン クワン 變換(天地 ノ)	廻轉、革命	テンヘン ^{テンヘン} キギ ^{キギ} カク ^{カク} 天變。嚴シキ變革(政 事ノ)
Sollen	ナラヌ。アラフ。ウル 得	アル、關係スル、 、 、 、デアラフ	、 、 子バナラヌ。 ヨウ ^{ヨウ} スル。ヨギ ^{ヨギ} ナクス ル。、 、セザルヲ得 ズ。、 、スベシ
Stadt	トフ 都府。マチ 町。シセイ 市井	都府	トクハイ ^{トクハイ} マチ ^{マチ} 都會。市里
Subjekt	ゲンユ 原由。ゲン ソ 元素。ジツタイ 實體。ジツシツ 實 質。ジツメイシ 實名詞(文典ノ語)。 ムヨウノヒト 無用 人	幕下、趣意、屬部	シユイ ^{シユイ} 。人 趣意。人
System	クミタテ 組立。ソ ナヒ 備。ホウソク 法則。ソロヒ 齊整。 ゼング 全具	組立、法則、揃	クミタテ ^{クミタテ} ソロ ^{ソロ} タイサイ ^{タイサイ} 組立。揃ヒ。體裁
Unterschreiben	下ニ書ク。ナヲシル ス 記名。シヤウモ ンヲカク 記證	微印スル、名ヲ記ス、 下ニ記ス	ナ ^ナ カキシル ^{カキシル} 。イレル ^{イレル} 名ヲ書記ス。書入ル
Verfassung	…ケイセイ 形勢。	——	著述。コクホウ ^{コクホウ} セイジ ^{セイジ} 著述。國法。政事。

日独対訳辞書解題 (三)

	…コクセイ 國政。 セイジ 政事		クミクテ 組立
Vernunft	リクハイ 理會。イ ミ 意味。ゾンジヨ リ 存居。セツ 說	理會, 意味, 感ジ, 知ラスルコト	チ エ リカイ 智慧。理解
Verstand	フンベツ 分別。サイ イチ 才智。カンジ 感。シリヨ 思慮。 セウ子 性根	道理, 才智, 神妙ナ ルヲ, 正直	ドウリ チ エ ハンダン 道理。智慧。判斷
Wirtschaft	郷土杯ノ私領。客舎 ノ渡世。ケイザイ 經濟。シヨクジトキ 食事時	家事スルヲ	ノウキヨウヂメン ヤドカシ 農業地面。舍貸スル ヲ 經濟。家事ノ捌 キ
Woche	イツシウ 一周	一周間	ヒトメグリ 一周 (七日ノ間ヲ 云フ)
Wochentag	六日 (一周ノ間日曜 日ヲ徐タルヲ云フ 也)	——	仕事日 (一周間休日 外ノ)

衣食に関することばでは

Brod(Brot)	パン 蒸餅	パン, 丸キ大イナル パン	パン 蒸餅
Gabel	肉サシ。クマデ 熊 手	肉サシ, 熊手	ニクサシ クマデ フトキ 肉叉。熊手ノ如キ物
Glas	ビイドロ 硝子。チ ヨク 猪口。イツバ イ	硝子	ビイドロ コップ バイ 硝子。硝子盃。一盃 (液物ノ)
Hose	モモヒキ	莫大小 Ein paar hosen 股引ノ一對	ゾボン …股引…
Käse	カンラク 乾酪	乾酪, 乳餅	カンラク 乾酪

日独対訳辞書解題 (三)

Pantoffel	ウハグツ 上靴。ザ ウリ 草履	上ハ腹	ウハグツ 上沓。草ノ名
Pfanne	サラ。ヒサラ 火皿	皿, 焼鍋	…火門。鍋鍋。…
Schinken	モモ 股(豕熊等 ノ)	臘乾	ラカン クマ フタ ウシロモ、 臘乾(熊又豕ノ後股 ノ)
Strumpf	ナガタビ 長襪	莫大小ノ股引	クビ メリヤス ヲリ 足袋(目利安織杯ノ)
Wurst	チャウヅメ 蜡腸	豕肉胡椒鹽等ヲ交シ テ製シタル菓子	チロウ 腸ヅメ。…

筆者注：—— は該当の見出し語がないことを示す。莫大小はメリヤスの当て字。なお、素姓(ソセイ)、體裁(タイサイ)などのふりがなは誤植ではなく、建康なども原文のままであるが、Pantoffelの「上ハ腹」は「上ハ履」の誤植であろう。